

# オアシス新聞

第三十二号

似て非なるもの 霜と氷の違いとは？

日中の気温が暖かくても、明け方にかけて気温がぐんと下がると、窓ガラスや草の葉に露がついてしっとりと濡れていることがあります。そして季節が進むにつれて、だんだんと冷え込みが強まると、露から霜へなつてきます。特にキンキンに冷えやすい車などは、自分の車は白色だったっけ？ っていうくらい霜に覆われることもあります。窓に付いた汚れをウォッシュヤー液で落そうと思ったら凍結させて前が見えなくなったり（冬場のあるあるネタ）、雨上がりの朝はドアが凍って開かなかったりと、冬の朝に車を発進させるのは、時間と労力が必要になります。ちなみに空気中に含まれる水蒸気が冷やされて水になる（気体から液体へ）と露ですが、水にならずにいきなり凍ってしまう（気体から固体へ）のが霜です。そんなことから冷えやすい金属でできている車は、他のもの比べても特に霜が降りやすいのです。

ところで霜柱は霜なのかということ却不是、土は乾いているように見えても意外と水分を含んでおり、その水分が凍ったもの（液体から固体へ）なので、『霜柱』ではなく『氷柱』と言うのが正しいのかもしれない。

それでは霜柱ができる仕組みを説明します。気温が下がるとまず地表の水分が凍ります。土の中は地表よりは温度が高いため、物質は温度が高い所から低い所へ移動する性質により、地中の水分が地表の氷に向かって吸い上げられます。吸い上げられながらだんだんと凍っていくので、氷がどんどん上へ上へと育っていき柱状の氷になるようつづきます。

結局はその他の原理も働いており、物理が得意な人でないと、正しい理論を理解することは難しいようです。あまり難しいことは考えず、朝一番の霜柱を誰よりも早くサクサクと音を立てて歩いたら、童心に帰って楽しい気分になりますよ！

霜が降りると寒さに弱い植物は枯れてしまうこともあります。今はビニールや寒冷紗などで保温をすることが多いですが昔ながらのわらで作られた霜よけは未来へ残したい冬の風物詩のひとつです。

ポタンの霜よけは雪ん子みたいでかわいいけれど

1月の霜よけは夜の暗闇で見たら妖怪が出た！とびっくりするかも！

脂の甘みとやわらかさがたまらん！

うまみをとじこめる効果も！



まるで霜が降りたように細かく脂が入った肉を「霜降り肉」と言います。また魚や肉の下ごしらえとして熱湯をさっとかけると加熱する方法を表面が白くなることを「これまた霜降り」と言います。その他にも生活の中には色々な霜降りがありますね！